

「キリストの平和」

ヨハネによる福音書 14 章 27 節

聖学院幼稚園・小学校チャプレン 中村 謙一

暑かった夏休みが終わって、今朝、私たちは始業日の礼拝を守っています。いよいよ秋の学校生活が始まります。しっかりとみ言葉を受けて心を整え歩みましょう。ヨハネによる福音書14章27節は、9月の暗唱聖句です。この聖句を覚えましょう。それは次のようなみ言葉です。「わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな。」この中にある「わたしの平和を与える。」が9月の暗唱聖句です。

この主イエスのみ言葉は神様の約束です。信じると必ずその通りになります。神様の約束とは、例えば、クリスマスに救い主イエス・キリストがお生まれになった、という御言葉と同じように、信じると必ず実現する言葉です。主イエスのお国ユダヤの人々は、神様が必ず救い主をこの世に送って救ってくださるといふ聖書の御言葉を信じて祈っていました。そして、その御言葉の通りに、神様は主イエス・キリストをクリスマスにこの世界に生まれさせてくださいました。そして、父なる神様は、神の御子主イエスの十字架と復活によって、人間の罪を赦し、天国への道を開いてくださいました。「わたしの平和を与える。」も、神様の約束の言葉です。信じると必ず実現します。

さて、「心を騒がせるな。」と書いてあるので、神の御子主イエス・キリストが私たちに与えようとする平和とは、心の平和であることが分かります。この時、弟子たちは、三度も主イエスから受難予告を聞いていますから、主イエスの十字架の死に驚き悲しんでいました。弟子たちの心は騒がしかったのです。しかし、主イエスは、弟子達の心に、または、私たちの心に主イエスの平和を与える事ができる神の御子です。そもそも、主イエスの弟子たちのように、私たち人間の心は罪の影響を受け騒がしくなるのです。イエス様の御言葉を忘れて、右へ行ったり左へ行ったり人間の心は落ち着きません。

聖書が教える人間の「罪」とは、心が自己中心になって迷ってしまう事です。まるで自分が神様になってもなったかのように、自分の意見だけが中心になってしまいます。自分の意見だけが正しい、そのようにしたい、となります。他者の意見などは大切にできなくなります。他者の意見が自分と違う時には、自己中心の自分の心は、その他者の意見を正しくても、聞くことも敬うこともできません。心が自己中心なので、争いも起こします。自分の意見を無理に通すからです。自己中の心を持つ人は、他の人と争います。他の人が傷ついても平気です。

自己中心の心を持つ人は平気で自然の環境を自分の利益のために汚します。他者の意見を尊重できない人は、神様が創造されたこの自然を良い状態で保てません。必ず金儲けのために汚します。自己中の人が国に増えると、その国はすぐに他の国の資源を奪おうと考えます。そして、侵略戦争を始めます。人間は昔から、戦争ばかり起こしてきました。戦争は人間の自己中心的な心が起こします。今も、自分勝手な意見で、ウクライナで戦争が起こっています。あの戦争は正しいのだ、と主張する

自己中な人もいます。信じられません。人が住む住宅や公園にミサイルを撃ち込んで、子供や親を殺しても、自己中の心は何とも思いません。また繰り返します。自分の意見がその通りに聞かれ、かなうまで愚かな戦争を続けてしまうでしょう。

このように罪の影響を受けた、どうしようもない人間の自己中な心に希望はあるのでしょうか？平和をいただけるのでしょうか？いただけます。希望は、神の御子、主イエス・キリストのみ言葉にお従いすることにあります。ただお従いするのではなく、お従いしつつ祈るのです。主イエスのみ名で祈る事が大切です。すると、祈りの中において、わたしたちの心が自己中心から神中心に変えられます。すると、わたしたちは他者を思いやることへと導かれていきます。なぜなら、神中心とは、神様の思い中心ということだからです。神様の思いとは何のことでしょう？それは聖書に書いてある神様の御心のことです。神様のみ心とはなんでしょう？それは「神を愛し、隣人を自分のように愛す」ことであります。これが聖書の中で一番大切な教えであると、主イエスも認めておられました。主イエスもこの教えにお従いました。そして、神と人に愛され、心に平和が与えられました。

み言葉にお従いしつつ祈る時、私たちの心は、本当に自己中心から神中心に変えられます。つまり、私たちの心は主イエス中心に移されます。神の愛の手本は主イエス・キリストだからです。主イエスの御言葉にお従いすると、私たちは主イエスを愛していることになるのです。そして導かれます。どこに？自己中から神中心に心が導かれるのです。そのように祈って心が変わられることを「罪から悔い改めること」と言われています。

悔い改めるとは、祈って心を罪から、悪い方向から良い方向へ変えることです。その時に、祈りの中で、自分のどこが悪かったか認められるようになります。そして、イエス様に自分がしてしまった悪い事を打ち明けて謝ることへと導かれます。イエス様は、このように祈る人をお赦しになります。イエス様が赦すと、父なる神様が赦します。だから神と人の間に平和が与えられます。この平和がキリストの平和であり、イエス様が十字架と復活の力によって罪を赦す救い主だと気がつけば、その人はますます平和のために用いられ、この世に平和をつくる人として遣わされます。

皆さんは祈っていますか？聖書のみ言葉にお従いしていますか？9月の暗唱聖句を覚えてしっかりと心に納めましょう。そして、主イエス・キリストの御名で、心から祈りましょう。すると、神様は、わたしたちの心に、主イエスが言うところの「わたしの平和」をお与えくださるでしょう。「わたしの平和」とは「キリストの平和」です。それは、十字架と復活の主イエス・キリストが約束してくださって、私たち人間すべてにお与えくださる平和です。キリストの平和が人間の心を支配する時、私たちは真の平和のために神様によって用いられます。キリストの平和は、まず、私たちの心を変えることから始めて、他者を思いやることへと導かれて、その人の周りに平和な人間関係が広がっていくことへと進みます。

その時に、「神を愛し、隣人を自分のように愛す」という聖書のみ言葉がキリストの平和によって実現するでしょう。他者を思いやり、他者の痛みがわかる人が世界に増えれば、この世から争いや戦争は減っていくことでありましょう。他者だけでなく、自然や環境の痛みも感じる事ができ、自然をもっと大切に運動へと世界が導かれるでしょう。互いの意見が今よりもっと尊重され、一方的な独裁が減り、より民主的で寛容なことが受け入れられ、人類は今よりも正しい判断へと導かれていくでしょう。私たちが祈って、心にキリストの平和を受けましょう。祈ります。

天の父、始業礼拝に感謝いたします。大変、暑かった夏休みの間、私たち聖学院小学校をお守りくださってありがとうございます。神様、9月の暗唱聖句をありがとうございます。十字架と復活の神の御子、主イエス・キリストの愛のみ言葉にお従いしつつ祈ることを、どうか得させてください。その時に、私たちの心を自己中心から神中心へと変え、神と人にお仕えしたキリストの平和が与えられますようにお願いいたします。そして、あなたの栄光のために今日も私たちをお用いください。この祈り、神の御子、主イエス・キリストの御名によって、御前にお献げいたします。アーメン。

2023年9月1日 聖学院小学校 始業日礼拝